

## 韓流

国立病院機構大阪医療センター  
臨床研究センター長  
是恒 之宏

1990年ごろ、アメリカ留学中に韓国料理店に入った時のことである。店のおばさんが、なんのためらいもなくハングル語のメニューを持ってきた。その後1分ぐらい、ずっとハングルでしゃべりかけられたが、全く分からず、ようやく“Im Japanese.”と言ったところ英語のメニューを出してくれた。私は大阪生まれの大阪育ちであるが、元々のルーツは大分県宇佐である。ひょっとすると、祖先は韓国から来たのではないかと思ったりする。その後、全く韓国には興味がなく、日本でおばさんたちが、ヨン様に夢中であった頃も、全く理解できなかった。ところが、とあるきっかけから韓流ドラマにはまることになった。そのきっかけが「大長今」である。大長今と聞いてわかる人はあまり多くないかもしれないが、「宮廷女官チャングムの誓い」と聞けば、ああ、と思う人も多いだろう。それ以降、韓国には親しみを覚え、これまでに3回ソウル旅行へ行った。チャングムテーマパークで、娘、息子とともに、中宗、文定王后、ミンジョンホの衣装をつけ撮った写真はなつかしい思い出である。ソウル市内からはバスで2時間ほどかかったが、家族の中で私が一番楽しんでいたように思う。

韓国ドラマのよくあるパターンは、交通事故・記憶喪失・すれ違い・継母のいじめ・三角関係・不治

の病などであるが、一昔前の日本のドラマのようで、安心して見ていられるのである。東京出張の際には、新幹線で、行き帰りのトータル5時間を有効に使っている。当院では、12年前より文部科学省のミレニアムプロジェクトであるオーダーメイド医療実現化プロジェクトに参加しているが、その専任CRCがこれまた韓流通であり、ドラマを1つ見終わると「先生、こんなんありますけど、見はりますか」と言ってDVDを貸してくれるのである。

1つ見ていて違和感を覚えるのは、「豊臣秀吉」の捉え方であろう。韓国では、時代劇に必ずと言っていいほど頻繁に出てくる日本人、それもヒーロー役である。日本では秀吉の朝鮮出兵はあまり大きく取り上げられないが、韓国では国を侵略に来たにつくき敵なのである。おそらく、豊臣秀吉の知名度は日本より高いかもしれない。当院は、大阪城に近い大阪市中央区にあるが、我々が「太閤さん」と親しみ深く呼んでいるのとは全く違う。過去よりいろいろな関わりのある両国であるが、韓流ドラマが日本における韓国の理解を深める大きな役割を果たしたことは言うまでもない。いま、日本と韓国の関係は決していいとは言えないが、改善に向け進みだしたところであり期待したい。